



©JICA/吉田 勝美

<中国医科大学>

中国医科大学に供与された医療機器。全身X線CTスキャナー、多機能心電計、多軌道X線断層撮影装置など、多くの医療機器が付属病院に供与され、技術協力で活用された。

短期専門家による病棟回診と技術指導。90年代に日本の技術協力、無償資金協力を受けた中国医科大学は、その後円借款も活用して自立発展し、現在も日本の大学との交流が継続、さらに発展している。(中日医学教育センタープロジェクト)



3. 近年の協力

日本は2001年に「対中国经济協力計画」を策定し、援助の重点分野を6つに決めました。現在ではその中でも地球規模の問題(環境・感染症)に対する支援、中国の改革開放政策を支援するための、経済・社会システム整備等、ソフト分野への協力を中心に行っています。

また、重点分野のひとつである「相互理解の促進」のため、中国各地で日本のボランティアが現地の人々とともに活動している他、日本の地方自治体、NGOなどがJICAの支援を受け行っている草の根技術協力も各地で展開されています。

私たちはこれからも、日中両国が隣人として、相互に協力しあう未来を目指していきたいと考えています。

<環境保全>



モデル圃場での灌漑と営農について、牧民から話を聞く専門家(中央)。カウンターパートとともに現地に適用できる節水灌漑手法について検討。(草原における環境保全型節水灌漑モデル事業)



日本から供与された機材で大豆畑の土壌分析をしているカウンターパート。黒龍江省では大豆は主要な農産物であるが、輪作による土壌病害が多発しており、この対策技術の研究が急務であった。(持続的農業技術研究開発計画)



山西省吉県の無償資金協力により造成されたモデル林。黄土高原を中心とした黄河中流域では4,300万ヘクタールにもおよぶ荒廢地が広がっており、土砂流出による農地の減少、下流域での洪水や干害、黄砂などの被害が発生している。



甘肅水資源管理・砂漠化防止事業(円借款)：乾燥地帯であり砂漠化の進む甘肅省で、植生の回復、砂漠化の防止、水資源管理、作物の収量増加による貧困緩和などのために、節水灌漑施設の整備を行った。



村人の生活状況を確認する専門家。このプロジェクトでは長江上流の環境保全（水土流出防止）と住民の生計向上を目指している。（涼山州金沙江流域自然悪化地域における貧困削減モデルプロジェクト）



2009年9月、寧夏回族自治区財政庁外国債務管理弁公室副主任李国強氏は、タクラマカン砂漠の東南に位置し風砂害が深刻している西風口と呼ばれる中衛市サイト区にて、順調に成長している沙棘を指しながら、「実施前、風砂害が頻繁に発生し、砂漠化が進行した。しかし、現在、大部分の移動砂丘が固定され、砂漠化が防止されている」と感慨深げに言った。



2001年に始まった円借款寧夏自治区植林植草事業の対象地域は、寧夏自治区の約半分の市・県に及ぶ。約5.6万haの地域で既に植林・植草が実施され、事業対象地域の森林被覆率は2.5%高まり、8万ha以上の農耕地が保護され、80万人以上の居住民の生活環境が改善し、農民一人当たり、約200人民元/年の収入増に繋がった。写真は「草方格」（注：草方格とは1m四方にワラを埋め込んで砂の移動を止める作業）で砂漠化を防止する。

北京市環境整備事業
（北京：円借款）

石炭ボイラー式暖房に代わり、天然ガスで電気と熱を作り出すシステムを導入し、北京市の大気汚染改善に寄与している。近隣への騒音を考慮し、ガスタービン（右端）は巨大な箱の中に入れてられているため外からは見えない。



<保健医療>

甘肅省天水市清水県の建築現場で行われた農民工のエイズ検査。エイズ検査やカウンセリングのほか、エイズに対する正しい知識の普及と予防のための教育をあわせ行った。（甘肅省HIV/エイズ予防対策プロジェクト）



江蘇省での家庭保健セミナー。一般住民を集め、家族計画、母子保健、栄養改善、寄生虫予防などの指導を行う。経済発展の立ち遅れた中西部地域の家庭保健状況の改善のため、中国リプロダクティブヘルス・家庭保健研修センターの人材育成を2006年から実施した。（中西部地域リプロダクティブヘルス・家庭保健サービス提供能力強化プロジェクト）



新疆ウイグル自治区で行われた免疫強化活動。中国西部5省を対象に、感染症の監視体制の強化と、予防接種事業の改善により、子どもの健康を改善する取り組みが現在も行われている。（ワクチン予防可能感染症のサーベイランス及びコントロールプロジェクト）



入園した子どもの予防接種手帳をチェックする教員と、江西省上高県疾病予防コントロールセンター（CDC）職員。接種漏れを防ぐ取り組みの一つとして、幼稚園、小学校入学時に行われている。（ワクチン予防可能感染症のサーベイランス及びコントロールプロジェクト）



寧夏回族自治区の鎮の衛生室にて。予防接種や母子保健などについて村医さんからの説明を受ける日本人専門家。（ワクチン予防可能感染症のサーベイランス及びコントロールプロジェクト）

＜改革開放支援＞



山東省牡丹区で村民の意見を聞く調査団員。農村社会養老保険制度の改善策の策定、モデル地区における制度の実施、基金管理システムの構築、全国普及のための提言などを行うため、2006年から3年かけて調査を実施した。（農村社会養老保険制度整備調査）

2009年7月に北京市郊外で行なわれた「権利侵害法研究会」の様子。一橋大学法学部 上原教授をはじめとする日本のトップレベルの研究者が、全人代民法室のメンバーと丸二日間、権利侵害法の草案についてみっちり議論した。（民事訴訟法・仲裁法改善プロジェクト）



<帰国研修員同窓会>



甘肅省蘭州の貧困家庭へ医薬品を贈呈しているJICA医療分野帰国研修員同窓会理事長。JICAの支援により日本で研修を受けた医師たちが、帰国後自分たちで立ち上げた医学研修員同窓会は、2006年10月に北京市郊外の農村地域で最初の活動を開始して以来、6回の無料問診活動を行ってきている。

<草の根技術協力>



乾燥に強い植物の種子を採取する現地住民。アラシャン盟内の砂漠化問題を改善するため、現地自生灌木の種子生産と住民の砂漠化問題への理解を高めるNGOの活動をJICAは支援している。（中国内モンゴル自治区アラシャン盟における砂漠化防止のための種子採種事業の確立と環境教育のモデル事業）

<青年研修>



2009年2月。JICA医療分野帰国研修員同窓会が行った、四川地震被災地での無料問診活動。多くの被災者が受診に訪れた。



青年招聘事業（現：青年研修事業）で日本を訪れた中国の青年。日本の高校生と共に生け花にチャレンジする。



砂漠化と土壌荒廃のすすむ寧夏で桑の葉を羊に与える農民。日本のNGOがJICAと協力し、乾燥に強い桑を植林し、羊の飼料として利用することで農民の生計向上に取り組んでいる。（寧夏紅寺堡地区飼料用桑栽培モデル農場建設及び研修）



日本人専門家による老人介護講座。福祉専門職の養成施設や高齢者関係施設をもつ旭川荘（岡山県）が、高齢化が問題になりつつある中国で介護専門職養成に対する協力を行った。（岡山ー上海高齢者介護教員養成センター）

<ボランティア>



涼山イ族自治州、標高3,000メートルにある小学校。青年海外協力隊員が中心になって始めた運動会で子どもたちと綱引きをする小林順子さん。普段はここからバスで1時間半の西昌市で活動している小林さんは、週に一度この学校で子どもたちと交流している。（四川省西昌市涼山民族中学派遣 日本語教師）



地元の子どもたちに野球を教える青年海外協力隊員の清野祐さん（広西壮族自治区桂林旅游高等専科学校派遣：野球）



子どもと工作をする青年海外協力隊の柴田身江子（旧姓林）さん。子どもたちの生きる力を養う教育を、同僚の先生たちと目指した。（重慶市南坪実験幼稚園 幼児教育）

砂漠化の進行する豊寧県で活動する青年海外協力隊員の鈴木純さん。週末緑化ツアーを企画し、参加者、地元関係者らとともに300本の油松の植林を行った。（河北省承德市 豊寧満族自治県林業局：環境教育）



北海道での教員の仕事を休職し、青年海外協力隊に参加した近藤康弘さん。日本語教師は中国に派遣されている青年海外協力隊の中で一番多い職種である。（吉林省鎮賚県 鎮賚県第三中学：日本語教師）

障がいを抱えた人が自分らしく生きるための支援をする「作業療法士」として派遣された青年海外協力隊員の福田彩子さん。（河北省河北医科大学第三医院派遣：作業療法士）



<四川大地震>



日本国際緊急援助隊救助チーム
北川中学校での救助活動の様子。余震の続く中での懸命の作業が続く。



日本国際緊急援助隊救助チーム
北川中学校からの撤収前に、共同作業を行なった北京市消防隊が来訪



日本国際緊急援助隊医療チーム
患者を他地域の病院へ搬送する。



日本国際緊急援助隊医療チーム
日本語のできる学生から「ボランティア
させてください」



ボランティアで日本国際緊急援助隊の救援
物資を運んでくれたトラック。多くのボラン
ティアに助けられ、現地での活動は行われた。



都江塚の仮設住宅で子どもと遊ぶ心のケアの専門家。
被災地での心のケアを行う人材養成を目的としたこのプロジェクトは、2009年6月から5年間の計画で開始された。
(心のケア人材養成プロジェクト)

中国地震局地震応急救援訓練基地で中国側の訓練状況を確認する調査団員。地震局の救助・応急対応分野の能力強化を図るこのプロジェクトは、四川地震復興支援の1つとして、2009年10月から開始された。(日中地震緊急救援能力強化プロジェクト)



被災地である北川県の建築物の倒壊状況を調査する「耐震建築人材育成プロジェクト」の専門家。四川地震復興支援の一つである本プロジェクトは耐震建築にかかる技術者、行政官約5,000人の育成を目的としている。

《謝辞》

本写真集作成にあたり、多くのJICA関係者から写真を提供いただきました。
皆様に厚く御礼申し上げます。



日本国際協力機構
中華人民共和國事務所